

2022年度業種別部会年間報告

1. 関東金属機械部会

1. 活動実績

新型コロナウイルス感染症の感染拡大に見舞われた2020年以降、年間の部会開催回数が減っていたが、2022年度は例年通り5回開催とした。第5回は2部構成で行い、延べ人数としては508名の方々に参加頂けた。過去5年で最大の

参加者であった。その中で第4回部会は、約2年ぶりの参集型での開催とした。一方、第3回部会は宿泊部会の開催を目指して取り組んでいたが、外部環境等も考慮し、見送りとした。

各回ともに、アンケートでは、“期待通り”若しくは“期待を上回った”との回答が多く大変好評であった。

関東金属機械部会行事一覧

	日程、会場	講演テーマ、講師	参加者数
第1回	6月22日（水） ～7月15日（金） VOD開催	オンライン上の模倣品の流通の現状と対策からオフライン対策への展開について OpSec Security 湯山 泰成 氏、渡部 翼 氏	107名
第2回	8月26日（金） ～9月16日（金） VOD開催	専利法第4次改正の実務に与える影響及び今後の展望 NGB株式会社 張 華威 氏	78名
第3回	10月21日（金） ～11月11日（金） VOD開催	～貝印の知財戦略～『“ナンバーワン”，“オンリーワン” 実現のための差別化担当部門としての活動』 貝印株式会社 地曳 慶一 氏	216名
第4回	12月15日（木） 参集型@銀座ビル ディング	特許マネタイズ-NPE活用のすすめ ～日本企業知財部プロフィットセンター化の推進～ Meister Tech Alliances LLC 松本 祥治 氏	35名
第5回	2023年 2月17日（金） ～3月10日（金） VOD開催	①国境を越えた研究開発と技術提携におけるデータおよび輸出入のコンプライアンス要件 ②中国ハイテク企業の認定について King & Wood Mallesons 金杜法律事務所 傅 廣銳 氏、馬 立栄 氏	72名

2. 2022年度の幹事・副幹事

幹事・副幹事の中には、在勤地が東京から遠かったり、出張制限がある等の環境のなか、皆で部会運営に取り組んだ。Face to Faceの機会

を設けることが難しかったが、第4回部会は参集型とし、その際に懇親会を開催し親睦を深めることができた。

	幹事	副幹事
第1分科会	岩崎 淳 (株)小糸製作所)	吉田 拓也 (マレリ(株))
第2分科会	赤塚 育久 (貝印(株))	石橋 俊裕 (株)ニコン)
第3分科会	一瀬 幹雄 (三井金属鉱業(株))	小俣 浩之 (三菱マテリアル(株))

3. むすび

22年度もコロナ禍のもと、制限がある中での活動であった。その中で、各部会でのアンケート結果を踏まえ、幹事・副幹事で検討し、話題性のあるテーマを選定し、多くの会員企業の皆様が参加していただけることを念頭に活動した。出張制限のある会社があり開催形態や懇親会開催について悩ましかったが、部会は4回を参加し易いVOD開催とし、1回を参集型開催とした。宿泊部会や会員企業の皆様が参加の懇親会は開催できず、会員間の親交を深めるとい

2. 関東電気機器部会

1. 部会運営について

2022年度の方針は次の通りである。

- ・会員相互や講師との交流の場を増やす
- ・参加者の人数や幅の拡大をはかる
- ・会員の希望を反映した運営を行う

2. 部会活動について

新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、約3年間リアルでの講演会、見学会、懇親会を開催できず、Webを主体とした活動が続いていた。Webでの開催であれば、参加しやすくなる反面、交流の場を増やし、会員の親睦を図るといふ本来の目的や意義を達成するのが難しくなってしまう。そこで、2022年度は、国内の新規感染者数の状況を考慮しつつ、会場での感染対策を徹底する等の工夫を行いながら、以前のようなリアルでの開催を目指して進めていくこととした。

その結果、第2回は約3年ぶりにリアルでの講演会、第3回は約3年ぶりにリアルでの懇親会、第4回は約3年ぶりにリアルでの見学会を開催することができた。なお、Webでの部会開催の要望も一部頂いていたため、第1回はWebにて開催した。

(1) 第1回部会

世界知的所有権機関（WIPO）日本事務所長澤井 智毅 氏より「イノベーションの現状と知

う観点では、貢献が不十分であったとも考えている。また、近年、幹事、業種担当役員の選出が難しくなっており、今年度も業種担当役員、副幹事の選出に苦勞した。

日本知的財産協会の事務局、会員各位、部会幹事OB、他業種担当役員、講師の方々など多くの方にご協力、ご指導をいただきましたこと、厚く御礼申し上げます。また、ご多忙の中、部会や幹事会の準備、遂行等を担当いただいた正副幹事の皆様、幹事を派遣していただいた会員企業各位に心から感謝申し上げます。

財、そして環境」と題して講演頂いた。

イノベーションと洞察力の関係、Win-Winとなるオープンイノベーションの重要性、一層のグローバル化の必要性、及びESG投資の高まりとWIPO GREENについて、解説頂いた。

(2) 第2回部会

株式会社デンソーウェーブ 技術開発部 知的財産室室長 牛嶋 隆雄 氏により「知財部門の役割とは!? QRコードにおける知財活動から見えること」と題して講演頂いた。

初期QRコードに対して、現在では小型化、セキュリティ、デザイン性が強化され多様な分野で利用されている点、及びQRコードに対する知財ミックスによる知財戦略等について、紹介頂いた。

セイコーエプソン株式会社 知的財産本部長 小林 利彦 氏より「企業価値の持続的成長の実現を支援する知財活動」と題して講演頂いた。

IPLを用いた経営トップとの対話、改定CGCを通じたロジック／ストーリーの開示・発信、知財価値の可視化による知財貢献、及びブランド支援・保護の具体的な方法等について、紹介頂いた。

(3) 第3回部会

味の素株式会社 知的財産部特許グループ長 堀田 正幸 氏より「味の素 働ってどんな会社? 知財活動の紹介」と題して講演頂いた。

事業領域が多岐にわたるため、領域によって

「コア・環境・戦略」を使い分けている点や、特定保健用食品制度の導入等もあり用途発明やパラメータ発明が増加している点等、食品業界ならではの活動や取組について、紹介頂いた。

特許庁 審査第四部長 大森 伸一 氏より「最近の知財情勢と特許庁の施策紹介」と題して講演頂いた。

知財をめぐる動向/JPOの取組、最近の特許法・特許制度等の概要、諸外国における知的財産を取り巻く最近の動向等、幅広く解説頂いた。

(4) 第4回部会

農研機構 農業機械研究部門 機械化連携推進部部長 古山 隆司 氏より「農研機構農業機械研究部門における知財の取組」と題して講演頂いた。

新たな技術を社会還元することを知的財産に関する基本方針の柱として掲げ、その方針に沿ってどのようにライセンス等の知財戦略を策定しているか、及び農機における質の高い権利獲得の事例等を紹介頂いた。

また、研究所の業務概要及び最新研究・共同開発成果のビデオを視聴後、最新農業機器を展示した「ショールーム」と昔の農機具を展示した「資料館」を見学した。

3. 今後の活動について

年度毎の当部会の参加人数、参加企業数、及び部会に登録している会員企業数を図1に示す。

会員企業数については、年度毎に変動はするものの全体的に微増傾向にある。一方、参加人数、参加企業数については、大きく変動する年度も含まれるが、全体的に減少傾向が続いている。2020年は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため開催回数が年5回から3回へと減ったことにより、大幅に減少した。2021年は全ての



図1

部会をWeb配信で行ったことにより3回の開催にも関わらず2018年と同等にまで回復している。2022年は、4回の開催のうちリアルでの講演会が3回だったこともあり、新型コロナウイルスの影響が収まりきらない中で参加人数を増やせなかった。

今後は、減少傾向の要因を探りつつ、より魅力的な部会活動を提供することで、多くの方に参加頂ける場を提供できるよう、当部会の幹事会で認識合わせを行った。

4. むすび

新型コロナウイルスが完全に収束することのない中、感染を拡大させることなくリアルでの活動に戻し、交流の場を増やしていくことができたのは、講師の方々、会員各位、JIPA事務局の皆様、及び幹事の皆様の多大なるご配慮とご協力によってなし得たものであるといえます。ここに厚く御礼申し上げます。

関東電気機器部会行事一覧

部会	開催日	会場	内容
第1回	6/24 (金)	Web配信 89名 80社	講演 : イノベーションの現状と知財、そして環境 講演者 : 世界知的所有権機関 (WIPO) 日本事務所長 澤井 智毅 氏

部会	開催日	会場	内容
第2回 東西	9/9（金）	リアル開催 （名古屋） 65名 56社	講演1：知財部門の役割とは!? QRコードにおける知財活動から見えること 講演者：株式会社デンソーウェーブ 技術開発部 知的財産室 室長 牛嶋 隆雄 氏 講演2：企業価値の持続的成長の実現を支援する知財活動 講演者：セイコーエプソン株式会社 知的財産本部長 小林 利彦 氏 懇親会⇒中止（名刺交換会の実施）
第3回 異業種	12/7（水）	リアル開催 （品川） 54名 50社	講演1：味の素(株)ってどんな会社？知財活動の紹介 講演者：味の素株式会社 知的財産部 特許グループ長 堀田 正幸 氏 講演2：最近の知財情勢と特許庁の施策紹介 講演者：特許庁 審査第四部長 大森 伸一 氏 リアル懇親会⇒34名
第4回 異業種	2023年 2/22（水）	リアル開催 （大宮） 33名 27社	講演：農研機構農業機械研究部門における知財の取組 講演者：農研機構 農業機械研究部門 機械化連携推進部 部長 古山 隆司 氏 リアル見学会：農研機構 リアル懇親会⇒27名

3. 関東化学第一部会

1. 活動方針

「人の繋がり」と「知財力UP」をキーワードに、以下のような方針で運営を行った。

- ①若手からベテランまで多くの会員が参加しやすく、会員のグローバルかつ広範な知財活動に役立つ部会の企画・運営を図る。
- ②会員相互の親睦と研鑽を目的として、業種や世代を超え、人的交流の図れる場を提供する。
- ③会員相互の情報交換や会員が興味あると思われる情報を提供することにより、会員の知財力UPを図る。

2. 部会活動について

全5回の部会を開催し、その延べ参加者数は529名であった。概要は以下の通りである。

- (1) 第1回部会（講演）全国家電会館+Web配信によるハイブリッド

旭化成株式会社知財インテリジェンス室 シニアフェロー 中村 栄 氏から、「知財情報の戦略的活用～旭化成グループにおけるIPランドスケープ活動を中心に～」と題したご講演を頂いた。講演では、旭化成のIPランドスケープ(IPL)

活動の進化として3段階のIPL活動の変遷をご説明頂いた。具体的には、2000年代の開発／知財戦略策定支援としての活動（Phase 1）、2016年からのマーケティング戦略の策定支援としての活動（Phase 2）、そして現在、経営／事業戦略策定支援として、仮説思考による精度の高い情報解析（Phase 3）を行っているとのこと。さらにIPLの具体的なイメージと事例の紹介に続き、コーポレートガバナンスコード改訂への対応についてご自身の経験も交えてご説明頂いた。

(2) 第2回部会（バス）かずさDNA研究所
東京駅に集合しバスにてかずさDNA研究所へ移動し、研究所の広報・研究推進グループの皆様よりDNA、研究所および研究所の知財活動の紹介についてご説明頂いた。さらに参加者によるDNA抽出実験、研究所見学を行った。

次にかずさアカデミアホールへ移動し、三枝国際特許事務所の弁理士池上美穂氏から「化学分野におけるAI関連技術を利用した発明に関する特許実務と考察」と題した講演を頂いた。講演では、近年急速に増え続けているAI関連発明について、その概要、各技術分野とのつながり、今後化学分野において想定される活用方法等についてご説明頂いた。

(3) 第3回部会（講演）Web配信によるライブ講演

ソナーレ特許事務所 弁理士 高橋 政治 氏より「パラメータ発明の権利化／権利化阻止の実務」について講演を頂いた。講演では、他社パラメータ発明の権利化阻止について、判例を踏まえたパラメータ発明の新規性や進歩性、記載要件の判断目安についての説明があったほか、パラメータ発明特許の権利者が権利行使できない記載例についても紹介された。

(4) 第4回部会（宿泊）長野県南木曾郡南木曾町 妻籠宿

1日目は南木曾町の紹介および町の主要事業の紹介（町の観光戦略、南木曾町リニア活用基本構想、妻籠宿街並み交流センター）について職員の皆様より講演を頂いた。講演後は、妻籠宿視察案内人による妻籠宿の案内をして頂き、長い歴史の中で培われた人々の暮らしと歴史の歩みについて深く理解することができた。

2日目は伝統工芸南木曾ろくろ（ヤマイチ小椋ロクロ工芸所）、マウカラニゴートファーム（やぎ牧場・チーズ工房）、志水木材産業（基幹産業の木工品）、古民家再生 Hostel 結い庵を訪問した。南木曾町の伝統工芸や木工品の見学と、移住して起業をされたゴートファームの三輪様と結い庵オーナーの熊谷様おふたりのご講演兼見学は、南木曾町の古き良き文化と新たな価値の創出を想起させるものであり、新旧両面の視点からみた地方創生の在り方を学ぶことができた。

(5) 第5回部会（講演）全国家電会館

株式会社シクロ・ハイジア 代表取締役CEO 小林 誠 氏から「経営・事業に貢献するための知財戦略～IPランドスケープを通じた知財部門の在り方と人材育成～」と題した講演を頂いた。

講演では、知財戦略は経営／事業戦略との対応関係を意識して検討することが望ましく、特許権等の知的財産権のみならず、人材・技術・組織力・顧客とのネットワーク等まで含めた‘知的資産’を経営に生かすことが重要であって、そのための手法の一つがIPランドスケープであるとのこと。またIPL活用場面として「新規事業開発・新規用途開発・新規R&Dテーマの検討」「事業戦略上のオープン&クローズ検討」について複数の具体的事例をご紹介頂いた。

3. その他の活動について

関西化学部会、関東化学第二部会及び当部会で合同幹事会を開催し、印刷博物館を見学した後、「部会運営に関する情報交換」「知財業務に関する情報交換」をテーマにした情報共有と意見交換を行った。

4. むすび

22年度もコロナ渦ではあるものの、講演部会3回、バス部会、宿泊部会とコロナ前と同様のスケジュールで部会を実施することができました。また、ハイブリッド部会という新たな試みも含めて、3年ぶりのバス部会や宿泊部会は幹事団としても手探りでの実施となりましたが、企画・準備及び開催にあたって講師や関係者の方々に多大なご協力を頂き、全部会を無事開催することができました。特に第一回のハイブリッド部会を開催するにあたってはJIPA関係者の方々から多くのご助言を賜り、円滑に部会活動を行うことができたのは、幹事団にとってその後の部会運営に大きな自信となって影響したと思います。最後に、多忙の中、精力的に準備等にあたって頂いた幹事の皆様、幹事を派遣して頂いた会員各位に心から深く感謝申し上げます。

関東化学第一部会行事一覧

部会	開催日・会場	内容
第1回 [講演]	6/3 家電会館 + Web	講師：旭化成株式会社 知財インテリジェンス室 シニアフェロー 中村 栄 氏 演題：知財情報の戦略的活用 ～旭化成グループにおけるIPランドスケープ活動を中心に～ 参加：(参集) 32社42名、(ウェブ) 101社160名

部会	開催日・会場	内容
第2回 [バス]	6/24 かずさDNA 研究所他	講師：かずさDNA研究所 広報・研究推進グループの皆様 講演：DNAと研究所の知財について+DNA抽出実験 講師：三枝国際特許事務所 弁理士 池上 美穂 氏 演題：化学分野におけるAI関連技術を利用した発明に関する特許実務と考察 参加：17社20名
第3回 [講演]	9/30 Web 配信	講師：ソナーレ特許事務所 弁理士 高橋 政治 氏 演題：パラメータ発明の権利化／権利化阻止の実務 参加：134社196名
第4回 [宿泊]	10/27,28 妻籠宿他	講演：南木曾町の観光戦略, リニア活用構想, 妻籠宿街並み保存 講演+見学：南木曾町の事業主の皆様による地方創生の取組み 参加：17社24名
第5回 [講演]	2023年 2/16 家電会館	講師：株式会社シクロ・ハイジア 代表取締役CEO 小林 誠 氏 演題：経営・事業に貢献するための知財戦略 ～IPランドスケープを通じた知財部門の在り方と人材育成～ 参加：60社87名

4. 関東化学第二・商社部会

1. 運営方針

下記方針により2022年度の部会を運営した。

- (1) Afterコロナを見据えてニューノーマルに則した活動形態を創出し、人と人とのつながりを大切にしたい会員相互の情報交換の場を提供する。
- (2) 事業に資する知財活動の推進を図るため、会員の関心が高い価値ある情報を提供する。

2. 部会活動

(1) 第1回部会

「知財政策の一丁目一番地を論じる」と題して、内田・鮫島法律事務所 弁護士 鮫島 正洋 氏に、オープンイノベーションの本質的な考え方や、コーポレートガバナンスコードに対する現場的な対応方針等についてWeb開催形式でご講演いただいた。ご講演の動画は後日アーカイブ配信を実施した。

(2) 第2回部会

「欧州単一特許制度の最新情報」と題して、Hasegawa弁理士事務所 弁理士 長谷川 寛 氏に、欧州単一特許制度の最新情報について概説いただくとともに、それぞれの分野で出願人の取るべき対応についてWeb開催形式でご講演い

ただいた。ご講演の動画は後日アーカイブ配信を実施した。

(3) 第3回部会

岐阜県のトヨタ白川郷自然学校での講演会と工場見学を含む宿泊部会形式で開催した。講演会は「発明者認定実務に関する法的諸問題（日米比較も含めて）」と題して、大江橋法律事務所 弁護士 重富 貴光 氏に、発明者認定紛争事例をご紹介いただき、法的諸問題を取り上げて実務上の留意点をご説明いただくとともに、日米比較の観点からも発明者認定実務の在り方についてご講演いただいた。また、講演会後に時間をとって、講師を交えて会員同士の活発な知財ディスカッションを行った。また、工場見学では、白川村役場のガイドの下、世界遺産である白川郷合掌造り集落を見学した。また、三郎丸蒸留所と源ますのすしミュージアムで製造ライン等を見学した。

(4) 第4回部会

「大王製紙における知的財産活動の変革（黎明期）」と題して、大王製紙株式会社 執行役員 知的財産部部長 今泉 隆司 氏に、事業に貢献できる知財活動、経営層や関係部署との関係構築・情報発信等についてWeb開催形式でご講演いただいた。

(5) 化学関連東西合同幹事会

2022年度は関東化学第一部会の主催で、関西

化学部会，関東化学第一部会及び当部会の各幹事が一同に会し，各部会の運営の現状等について情報を交換した。また，工場見学として，凸版印刷株式会社の印刷博物館を見学した。

3. むすび

当部会では2020年度からWeb形式により部会を開催してきた。しかし，コロナ禍の沈静化に伴いAfterコロナを見据えた新たな開催形式を模索した結果，本年度は部会毎にWeb形式と集合形式を完全に切り分けて開催するようにした。これは，ハイブリッド形式では，結局多くの参加者がWeb参加してしまい，現地参加者同

士の情報交換が図りにくいという他部会での課題を把握したためである。当部会の取り組みにより，一年全体で見たときに，運営方針である講演会開催による情報提供と会員相互の情報交換の場の提供を両立できるものと考えている。

部会の企画・運営にあたり，JIPA事務局の皆様，講師の方々，そして会員の皆様，多数の方々のご厚意とご協力を賜りましたこと，厚く御礼を申し上げます。また，正副幹事の皆様，そして幹事を派遣して頂いた会員各位に，心から深謝申し上げます。

関東化学第二・商社部会行事一覧

	開催日	参加数	形式／会場	演題	講師
1	6月1日(水)	79社 113名 (他部会1名含)	Web開催 (Teams) ※後日配信あり	知財政策の一丁目一番地を論じる	内田・鮫島法律事務所 弁護士 鮫島 正洋 氏
2	8月30日(火)	59社 89名 (他部会1名含)	Web開催 (Teams) ※後日配信あり	欧州単一特許制度の最新情報	Hasegawa弁理士事務所 弁理士 長谷川 寛 氏
3	11月11日(金) ～12日(土)	20社 20名 (日米比較も含めて)	トヨタ白川郷自然学校(岐阜)	発明者認定実務に関する法的諸問題	大江橋法律事務所 弁護士 重富 貴光 氏
4	2023年 3月27日(月)	63社 87名 (他部会2名含)	Web開催 (Teams)	大王製紙における知的財産活動の変革(黎明期)～事業に貢献できる知財活動とは～	大王製紙株式会社 執行役員 知的財産部部长 今泉 隆司 氏

5. 関西金属機械部会

1. 運営方針

当協会のスローガン「Creating IP Vision for the World」を念頭に，当部会を下記方針で運営した。

【基本方針】：

予測困難な時代への対応を余儀なくされた企業において，知的財産部門がどのような活動をしていくべきかについて，部会を通じて学びの機会を作る。

【具体的な内容】：

- ①企業価値向上に向けた知財活動
- ②今後の知的財産部門の担う役割
- ③新型コロナウイルスまん延の影響による活動自粛の下，学び・交流の継続

2. 部会活動

上記の基本方針に従い，別表に示す通り5回の部会を開催し，その概要は以下の通りである。

(1) 第1回部会

コロナ禍の影響により，会員の参集を無くし，Teamsを使った完全オンライン形式にて，2名による講師による講演会を開催した。

1人目の講師に弁理士法人 HARAKENZO

WORLD PATENT & TRADEMARK 弁理士 伊藤 茂稔 氏をお招きし、「マルチアンドマルチクレーム実務上の留意点」という演題で、以下についてご講演頂いた。

日本国における特許出願の審査におけるマルチクレームの制限、マルチクレームの制限が課される対象となる出願、日本出願時の留意事項、PCT出願時の留意事項等。

2人目の講師に大阪大学大学院法学研究科准教授 青木 大也 氏をお招きし、「VR (Virtual Reality) と意匠法、著作権法」という演題で、以下についてご講演頂いた。

VRと意匠法や著作権法との関係だけでなく、不正競争防止法による保護等、今後の検討項目等。

(2) 第2回部会

コロナ禍の影響により、会員の参集を無くし、Teamsを使った完全オンライン形式にて、2名による講師による講演会を開催した。

1人目の講師に、WIPO日本事務所 参事官 廣田 健介 氏をお招きし、「WIPOの施策概要とWIPO日本事務所の取組」という演題で、以下について講演頂いた。

PCTをはじめとする国際出願の事務局や知財に関する条約管理の役割、グローバルデータベースの提供、中小企業支援施策、各種統計や経済分析の発信、地球規模課題への取組。

2人目の講師に、Stoel Rives 法律事務所 特許弁護士 Ph.D. 伊藤 みか 氏をお招きし、「ブロックチェーンを含めた分散型台帳技術 (DLT) の米国特許クレーム戦略」という演題で、以下についてご講演頂いた。

分散型台帳技術 (DLT) を取り巻く日米の特許環境の違いについて解説を行う。特にDLTの実現において重きを占めるソフトウェア技術の保護適格性や記載・サポート要件の違いや、DLTを始めインターネット上などマルチアクターが存在する場合のクレームについての日米の知財高裁の解釈の違いなどを考察し、日本で基礎出願を行い米国にて権利化する場合のクレーム戦略や権利行使の可能性についての検討。

(3) 第3回部会

電気、化学、金属・機械の三業種合同でオフライン形式にて、2名による講師による講演会を開催した。

1人目の講師にJIPA事務局長 志村 勇 氏をお招きし、「知財を巡る最新トピックス」という演題で、以下についてご講演頂いた。

ドワンゴ裁判、AIは発明になれるか？ 伝統工芸の保護等。

2人目の講師にJIPA常務理事 中国電力株式会社 エネルギア総合研究所 鹿嶋 慎一郎 氏をお招きし、「中国電力の知財活動について」という演題で、以下についてご講演頂いた。

知財戦略の確立に向けて、知財戦略推進の成果、至近の情勢を踏まえた知財戦略、情報開示、知財を活用した地域連携等。

またテーブル毎に参加者が分かれ、知財に関する課題を共有し、グループディスカッションを行った。

(4) 第4回部会

コロナ禍の影響により、会員の参集を無くし、Teamsを使った完全オンライン形式にて、3名による講師による講演会を開催した。

1人目の講師にパナソニックIPマネジメント株式会社 代表取締役社長 足立 和泰 氏をお招きし、「事業に伴走する知財活動」という演題で、以下についてご講演頂いた。

事業と知財活動の変遷、電化、デジタル化やインターネット化を経て現在、知財活動の位置付け、事業に伴走する知財活動を目指した活動等。

2人目、3人目の講師にデロイトトーマツファイナンシャルアドバイザリー合同会社 峰岳広 氏、久保村 賢司 氏をお招きし、「IPランドスケープを用いた企業の知財戦略」という演題で、以下についてご講演頂いた。IPランドスケープ概要と背景、コロナ禍における製造業の状況と知財戦略の重要性等。

(5) 第5回部会

電気と金属機械部会による二業種合同で対面のみによるオフライン形式にて、シクロ・ハイ

ジア 小林 誠 氏による講演会を「IPランドスケープの活用と実践」という演題で以下について講演いただいた。

知的財産・無形資産，IPランドスケープ，改訂CGC等。

3. むすび

2022年度になり，ようやく例年5回開催していた部会を5回開催できた。これらの活動を通

じ，会員相互の交流や会員の知財力アップを図ることができたと考える。

最後に，コロナ禍で大変な状況の中，部会の運営にご協力頂きました講師，日本知的財産協会の事務局の方々に深く感謝申し上げます。更に，部会に参加していただいた会員企業の方々に，厚く御礼を申し上げます。

関西金属機械部会行事一覧

部会	日程	場所／参加者数	内容，演題／講師
第1回 【単独1】	6月15日（水）	WEB開催 参加者数66名 講師2名	1. 講演会 (1) マルチアンドマルチクレーム実務上の留意点 弁理士法人 HARAKENZO WORLD PATENT & TRADEMARK 弁理士 伊藤 茂稔 氏 (2) VRと意匠法，著作権法 大阪大学 准教授 青木 大也 氏 2. 部会（2022年度活動計画，等）
第2回 【単独2】	9月16日（金）	WEB開催 参加者数28名 講師2名	1. 講演会 (1) Blockchain Technology US Patent Strategy Stoel Rives法律事務所 弁護士 伊藤 みか 氏 (2) WIPOの施策概要とWIPO日本事務所の取組 WIPO日本事務所 参事官 廣田 健介 氏 2. 部会（2022年度活動計画，等）
第3回 【三種合同】	11月11日（金）	宮島コーラル ホテル 参加者数52名 （金属19，電気20，化学11） 講師2名 中国電力株式会社 エネルギー総合研究所	1. 講演会（内容：調整中） (1) 知財を巡る最新トピックス JIPA事務局長 志村 勇 氏 (2) 中国電力の知財活動について 知財部長 JIPA常務理事 鹿嶋 慎一郎 氏 2. グループディスカッション 3. 部会（2022年度活動計画，等） 4. 懇親会
第4回 【単独3】	2023年 1月16日（月）	WEB開催 参加者数66名 講師3名	1. 講演会 (1) 事業に伴走する知財活動 パナソニックIPマネジメント株式会社 代表取締役社長 足立 和泰 氏 (2) IPランドスケープを用いた企業の知財戦略 デロイトトーマツファイナンシャルアドバイザー合同会社 ヴァイスプレジデント 峰 岳広 氏， 久保村 賢司 氏 2. 部会（2022年度活動計画，等）
第5回 【二種合同】	1月27日（金）	住友クラブ 参加者数67名 （金属24，電気37，他5） 講師1名	1. 講演会 IPランドスケープの活用と実践 シクロ・ハイジア 小林 誠 氏（元デロイト） 2. 部会（2022年度活動計画，等） 3. 懇親会

6. 関西電気機器部会

1. 活動方針・テーマ

以下の活動方針・テーマにより2022年度の部会運営を行った。

(1) 活動方針

「ポストコロナという新たな時代を見据えた知財活動」をキーワードとし、予測困難な時代への対応を余儀なくされた企業において、知的財産部門がどのような活動をしていくべきかについて、部会を通じて学びの機会を作るということを活動方針とした。

(2) 活動テーマ

上記方針に基づいて、以下の内容をテーマとした部会を計画・実行した。

- ①企業価値向上に向けた知財活動
- ②今後の知的財産部門の担う役割
- ③新型コロナウイルスまん延の影響による活動自粛の下、学び・交流の継続

2. 部会活動実績

これらの活動方針・テーマに従って、全5回の部会を開催した。概要は以下の通りである。

(1) 第1回部会

2022年6月10日（金）に新型コロナウイルス影響下であったが、ホテルマイステイズ新大阪コンファレンスセンターにて電気機器部会単独部会を開催した。当協会の伊東正樹理事長（豊田自動織機）に講師を引き受けていただき、「豊田自動織機の事業と知的財産活動」という題で講演していただいた。講演では2030年ビジョン「クリーン・ゼロエミッション」「安心・安全、快適」「スマート」を掲げ、事業部・知財部・グループ企業で連携して、開発ロードマップに基づいて知財戦略を策定し、既存事業と新規事業で分けた知財活動を説明していただいた。

久しぶりの会場開催でもあり、関連会社との関わり方等に関する数多くの質問が寄せられ、活発な質疑応答が繰り広げられた。

(2) 第2回部会

2022年9月9日（金）にウインクあいち（愛知県産業労働センター）にて関東関西合同電気

機器部を開催した。講演は2本立てとなり、一つ目はデンソーウェーブの牛嶋隆雄氏に「知的財産部門の役割とは? デンソーウェーブの知財活動から見えること」という題で、二つ目は当協会の小林利彦常務理事（セイコーエプソン）に「企業価値の持続的成長の実現を支援する知財活動」という題で、それぞれ講演していただいた。牛嶋氏の講演では、QRコードの概要から知財の取組みについて説明され、知財ミックス、オープンクローズ戦略という、知財をやっているなら誰でも知りたいような大変興味深い話であった。また、小林常務理事の講演では、CGCについてロジック／ストーリーとして開示・発信して知財が経営に貢献していることの重要性が説明され、会員企業にとって今後のCGC対応について大変参考になった。

(3) 第3回部会

2022年11月11日（金）に宮島コーラルホテルにて関西三業種合同部会を開催した。講演は2本立てとなり、一つ目は当協会の志村 勇 事務局長に「知財を巡る最新トピックス」という題で、二つ目は当協会の鹿嶋慎一郎常務理事（中国電力）に「中国電力の知財活動について」という題で、それぞれ講演していただいた。

志村氏の講演では、ビジネスコート、ダウンゴ裁判、経済安全保障推進法等の最新の有益な情報を提供していただいた。また、鹿嶋常務理事の講演では、知財報告書での特集企画や知財を活用した地域連携といった中国電力独自の取組みが説明され、従来の知財活動の枠を超えて活動領域を広げていくスタンスが参考になった。

(4) 第4回部会

2022年12月9日（金）に日本盛酒蔵通り煉瓦館にて電気機器部会単独部会を開催した。シスメックスの井上二三夫氏に講師を引き受けていただき、「シスメックスの知財活動～当たり前のことを当たり前～」という題で講演していただいた。講演では、当たり前のことを実践するための環境整備、人材育成等の重要性について説明していただいた。知財レビューシステム、知財KPI、中国模倣品対策などに関する質問が

寄せられ、活発な質疑応答が繰り広げられた。

(5) 第5回部会

2023年1月27日（金）に住友クラブにて関西二業種合同部会を開催した。シクロ・ハイジアの小林誠氏に講師を引き受けていただき、「IPランドスケープの活用と実践」という題で講演していただいた。小林氏による講演の後、参加者からは、知財と無形資産に関する企業内の組織形態・役割分担、CGCにおける情報開示、などに関する質問が寄せられ、活発な質疑応答が行われた。

3. むすび

2022年度は、当部会ではコロナ対策を十分行った上で、全回会場開催を実行し、懇親会も

可能な限り実施した。その結果、当協会の本来持っている会社の枠を超えた人脈形成や課題解決の議論をする場を少しは提供できたと考えている。

2023年度以降も、Withコロナに向けて活発な部会活動を継続していただくことを大いに期待している。最後に、この1年を通じて協力していただいた各講師の皆様へ深く感謝申し上げますとともに、部会開催につき多大なるご尽力をいただいた電気機器部会他各種部会幹事、日本知的財産協会事務局の皆様には厚く御礼申し上げます。

関西電気機器部会行事一覧

部会	開催日・場所	出席数	講演者・内容
第1回 6月度部会 (単独：半日) 関西電気機器部会	2022年 6月10日（金） ホテルマイステイズ新大阪 コンファレンスセンター	33名 講師1名	1. 講演会 株式会社豊田自動織機 知的財産部 部長（JIPA理事長）伊東 正樹 氏 「豊田自動織機の事業と知的財産」 2. 部会（2022年度活動計画、等） 3. 懇親会
第2回 9月度部会 (合同：半日) 関東・関西合同 電気機器部会	2022年 9月9日（金） ウインクあいち	73名 52社 講師2名	1. 講演会 (1) セイコーエプソン株式会社 知的財産本部長（JIPA常務理事） 小林 利彦 氏 「企業価値の持続的成長の実現を支援する知財活動」 (2) 株式会社 デンソーウェーブ 技術開発部 知的財産室 室長 牛嶋 隆雄 氏 「知的財産部門の役割とは!? デンソーウェーブの知財活動から見えること」 2. 交流会
第3回 11月度部会 (合同：半日) 関西三業種合同部会 (電気機器・ 金属機械・化学)	2022年 11月11日（金） 宮島コーラルホテル	52名 (金属19名, 電気20名, 化学11名) 講師2名	1. 講演会 (1) JIPA事務局長・関西事務所長 志村 勇 氏 「知財を巡る最新トピックス」 (2) 中国電力株式会社 エネルギー総合研究所 知的財産部 部長 (JIPA常務理事) 鹿嶋 慎一郎 氏 「中国電力の知財活動について」 2. グループディスカッション 3. 懇親会
第4回 12月度部会 (単独：半日) 関西電気機器部会	2022年 12月9日（金） 日本盛 酒蔵通り 煉瓦館	36名 講師1名	1. 講演会 シスメックス株式会社 知的財産本部 理事・本部長 (元JIPA副理事長) 井上 二三夫 氏 「シスメックスの知財活動 ～当たり前のことを当たり前～」 2. 部会（2022年度活動計画、等） 3. 懇親会

部会	開催日・場所	出席数	講演者・内容
第5回 1月度部会 (合同：半日) 関西二業種合同部会 (電気機器・ 金属機械)	2023年 1月27(金) 住友クラブ	58名 講師1名	1. 講演会 株式会社シクロ・ハイジア 代表取締役CEO 小林 誠 氏 「IP ランドスケープの活用と実践」 2. 部会(2022年度活動計画, 等) 3. 懇親会

7. 関西化学部会

1. 部会運営方針

2022年度の部会運営方針は以下の通りである。

- (1) グローバルな知財活動に役立つ情報を提供する。
- (2) 知財実務を支える専門情報及び人材育成の為の情報を提供する。
- (3) 世代を超えた会員相互の情報交換と親睦を深める交流の場を提供する。

2. 部会活動

2022年度は関西三業種合同部会を含め、年3回開催となった。その概要は以下の通りであった。

(1) 第1回部会

JIPA関西事務所をホストとしたWEB配信で開催を行った。

会務報告として本年度の関西化学部会の構成、年間活動方針および活動計画を業種担当役員より説明したのち、弁護士法人関西法律特許事務所 弁護士・弁理士 田上 洋平 氏より「裁判例からみる化学系特許の留意点」という演題で、拒絶査定不服審判や無効審判の審決取消訴訟の最近の判決の解説と、判決の傾向から導き出される明細書の記載の留意点に関し、ご講演いただいた。

講演の終了後には、講師、業種担当役員、および幹事が出席する懇親会を開催し、活発な意見交換がされた。

(2) 第2回部会

関西三業種合同部会として広島県の宮島コーラルホテルにて開催した。

冒頭に関西金属機械部会業種担当役員が開会の挨拶を行ったのち、講演会1として、JIPA事務局長兼関西事務所長 志村 勇 氏による、演題「知財を巡る最新トピックス」として、講演頂いた。

最近の知財に関するトピックスとして、テレワークに関して、ビジネス・コート、ダウンゴ裁判、AIは発明者になれるか、経済安全保障推進法、伝統工芸品の保護等の項目について講演をいただいた。

講演会2として、中国電力株式会社エネルギー総合研究所 知的財産部長・JIPA常務理事鹿嶋 慎一郎氏より中国電力の知財活動についてと題して講演をいただいた。最初に中国電力の概要を紹介していただいたのち、中国電力の知財活動として、知財戦略の確立、知財戦略推進の成果、至近の情勢を踏まえた知財戦略、さらに、情報開示、知財を活用した地域連携について講演いただいた。

続いて、関西金属機械部会業種担当役員の司会にてグループディスカッションを実施した。具体的には参加者3～4名でグループを組み、2テーマ(外部の専門家(特許事務所等)とのうまい付き合い方、企業の成長戦略に必須となる知財部に変革する方法)についてグループディスカッションを行いディスカッション内容の発表を行った。

講演会の後、同ホテルの懇親会場で懇親会を開催した。講師を含む38名にご出席頂き、幅広く意見・情報交換を行い、会員相互の親睦を深めた。

(3) 第3回部会

日華化学株式会社(福井市)での現地開催と

WEB配信の併用で開催した。

会社説明及び研究棟見学は会場参加者を対象とし実施した。

日華化学株式会社界面科学研究所フェロー松田様による会社及び研究棟の説明のうち、新研究棟である「NICCAイノベーションセンター」(NIC)の見学では、建物の造りに加えて内装の説明を受けた。

続いて、講演会に先立ち会務報告として本年度の関西化学部会の構成、年間活動方針および活動計画を業種担当役員が説明した。

講演は、創英国際特許法律事務所 副所長・弁理士 清水 義憲 氏より演題「五極特許庁の記載要件に関連する論点と実務上の注意点」としてご講演頂いた。講演内容としては、実施可能要件及びサポート要件、用途発明、数値限定発明、特殊パラメータの4つの観点で各国の傾向を対比して説明いただいた。講演全体として、『エッセンスを抽出し画像化してイメージとして捉える』という清水氏のご配慮により、各観点が感覚として理解しやすい内容であった。

会社見学及び講演の終了後には、会員間の意見交換及び親睦を目的として懇親会を開催した。講師の清水氏とJIPA副理事長の松本氏(ダ

イキン工業株式会社)も参加され、活発な意見交換がされた。

3. むすび

コロナ禍の影響が残る中、2回の現地開催形式の部会を実施できたため、会員企業様の交流や人脈形成に一定貢献できたと考えている。

一方、講演会講師については、弁護士・弁理士による実務系の話題に集中した点が反省点である。

2023年度以降は、開催回数をコロナ禍前の年4回(関西三業種合同部会を含む)に戻し、講演会講師を企業、アカデミア(大学等)、特許事務所、審査官等からバランスよく依頼することが望まれる。

2022年度も部会の企画から準備、及び開催に至るまで、講師の方々に多大なご協力を頂き、各部会をトラブルもなく終えることができました。またJIPA関係者、他部会幹事の方々から多くのご助言・ご指導・ご協力を賜り、円滑に部会活動を行うことができました。

最後に、ご多忙の中、精力的に準備等に当たって頂いた幹事の皆様、幹事を派遣して頂いた会員企業の方に心から深く感謝申し上げます。

関西化学部会行事一覧

部会	開催日	参加者数	開催形式	演題と講師
第1回	6月23日	121名	講演：WEB配信	演題：裁判例からみる化学系特許の留意点 講師：弁護士法人関西法律特許事務所 弁護士・弁理士 田上 洋平 氏
第2回	11月11日	52名	講演：宮島コーラルホテル	演題1：知財を巡る最新トピックス 講師：JIPA事務局長・関西事務局長 志村 勇 氏 演題2：中国電力の知財活動について 講師：中国電力株式会社エネルギー総合研究所 知的財部長・JIPA常務理事 鹿嶋 慎一郎 氏
第3回	11月22日	会場27名 WEB42名 合計69名	見学：日華化学株式会社 講演：日華化学株式会社/ WEB配信	演題：五極特許庁の記載要件に関連する論点と実務上の注意点 講師：創英国際特許法律事務所 副所長・弁理士 清水 義憲 氏

8. 建設部会

1. 運営方針

2022年度の部会方針は以下の通りとした。

(1) 部会運営方針

「会員の啓発および会員相互の交流と親睦」を基本とし、価値ある情報と高め合う場を提供することで参加者が成長を実感でき、もって各会員企業の知財活動のレベルアップにつながる活動となることを目指し、部会を運営する。

(2) 2022年度部会活動方針

部会運営基本方針を踏まえ、2022年度の具体的な活動方針を以下のとおりとした。

1) 『進歩～Progress～』を共通テーマとし、部会活動および研究会活動を通じて、参加者が課題意識の持てる旬の話題や先進的企業取組に触れる機会を提供することで、参加者個人の啓発を促す。

2) 新型コロナ禍の終息が見えない中であっても、会員相互のコミュニケーションが確保できる運営方法について検討し、部会活動を実施する。

2. 部会活動について

建設部会は、人的交流とそれに伴うモチベーション向上、他社参加者との課題感の共有を主な参加意義と考えている。参加者個人が部会に参加することで成長を実感できることを目指して部会活動を運営したいと考え、年間を通してのテーマを「進歩」とした。

知財部門は事業、技術開発、経営など企業内の様々な部門と深いつながりを持つ必要があり、そのためには目の前の実務をこなすだけの知識で満足しては不十分である。科学技術全体を俯瞰すること、知財業界の最新トレンドを吸収し実践すること、建設業界の近未来技術を常に意識し情報収集すること、は、建設部会会員にとって共通のとるべき姿勢であり、これらを意識して2022年度の部会活動を企画した。

以下に、部会各回の概要を記載するとともに行事一覧を末尾に添付する。

(1) 第1回部会 (5/13)

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴いWeb会議で開催した。

a) 部会報告

2021年度会計、2022年度建設部会活動計画(案)を報告し、全会一致で承認された。また、2022年度の研究会テーマを会員から募集し幹事団で協議した結果「知財ガバナンス」とすることに決定したことを報告した。

b) 講演

国立研究開発法人科学技術振興機構 フェロー／ユニットリーダー 中村 亮二氏による「研究開発の俯瞰から見えてきた環境・エネルギー分野動向」と題した講演を拝聴した。

講演では、①環境・エネルギー分野の研究開発は、今後の社会の移行（緩和、適応、強靱、循環）を推進する研究開発がより重要になると結論づけられる、②日本の研究開発力の現状を2019年版と2021年版で比較して30の研究開発領域におけるトレンドや強み・弱みを分析したところ、多くは中程度であり、弱みを強みに変えるべく、これらの底上げが重要と考えられる、③そのためには、CN実現に向けた候補技術の社会実装への加速や、既存の候補技術に代わる将来技術を育てる土壌作りが急務である、など、会員企業の事業に対して示唆に富む内容であった。

(2) 第2回部会 (7/8)

Web会議とし、また、オンライン工場見学を企画開催した。

a) 部会報告

2022年度の研究会実施状況、JIPA理事会の報告を行った。

b) 講演

株式会社横浜ビール 広報・ファンプロジェクト ゼネラルマネージャー 横内 勇人氏による「クラフトビールを通じた地域・人との繋がり」と題した講演を拝聴した。

講演では、①日本にクラフトビールの規定は無いが、1994年の規制緩和により、町おこし等で地元で根差した小規模なメーカーが作るビールが増え、「地ビール」と呼ばれていたものが、

「クラフトビール」と呼ばれるようになったものである、②横浜ビールは他の醸造所と協力して、横浜をクラフトビールの街とするよう活動を行っている、などの話題であった。

また、講演後、横内氏が醸造所の中にカメラを持ち込み、実際の設備や醸造作業についてご説明になるというスタイルの「オンライン工場見学」を実施した。

(3) 第3回部会 (10/7)

当初は会場参集とWeb会議の両方による「ハイブリッド開催」を予定したが、コロナ禍拡大を受け、Web会議のみによる開催とした。

a) 部会報告

JIPA理事会の報告、及び建設部会会計のあり方について検討中との報告を行った。

b) 講演

株式会社イーパテント 代表取締役社長／知財情報コンサルタント 野崎 篤志 氏による「建設業界とIPランドスケープ－CGC改訂およびSDGsを中心に－」と題した講演を拝聴した。

講演では、①2010年代後半から建設業界にデジタル化の波が押し寄せており、異業種・隣接業界の参入が増えている。業界内の競争ルールが変化しており、自社開発か、他社とのアライアンスかの検討に特許情報の活用が必須である。つまり、デジタル業界の戦い方を把握する必要がある、②2021年6月のコーポレートガバナンス・コード (CGC) の改訂で、補充原則に「知的財産への投資」が盛り込まれ、投資家向けの情報開示・提供と取締役の監督が必要となった。ガイドライン開示の遅れ等から、2022年度のCGC報告書への対応は各社の独自対応となった。今後は有価証券報告書や統合報告書等でどの様な開示が行われるか注目されるが、投資家だけでなく競合他社も報告書を見る事から、何を開示するのか、開示するべきなのかを十分に検討する必要がある、③IPランドスケープを組織に定着するためには「イシュー・課題」を特定・推測して、困っている（と思われる）部門に特許情報を活用して提案・提言を行い、成功体験を積み上げて各部門への浸透を図る。

何から何まで全社戦略に絡めるのではなく、先ずは各事業部門の事業戦略立案から特許情報の活用を始めるのが良いと考える、など、会員企業の事業に対して示唆に富む内容であった。

(4) 第4回部会 (11/25)

Web会議のみによる開催とした。

a) 部会報告

2023年度の幹事団候補が紹介され、全会一致で協会への推薦が承認された。

b) 講演

ARAV株式会社 代表取締役社長 白久 レイエス樹 氏による「ARAV株式会社の事業紹介およびOSS戦略の紹介」と題した講演を拝聴した。

講演では、①建機の無人化はメーカーの縛りが無い事から、建機を改造するデバイス（既存のソフトウェアにも対応可能）の開発と、それを動かす独自のソフトウェア開発を行い、その両方を提供しており、知財は出願件数を追うのではなく、事業を守るというスタンスで取組を行っている、②自動運転のシミュレーターをウェブサイトで公開している。開発において得たノウハウを、一定の条件下で社会に還元する取組であり、今後は自動運転アプリの公開を検討している、などの話題であった。

c) 特許庁行政報告

特許庁 審査第一部 自然資源 上席審査長 川俣 洋史 氏による「建設分野を取り巻く知財行政の最近の動向」と題した報告、特許庁 審査第一部 自然資源 主任上席審査官 大塚 裕一 氏による事前アンケートへの回答、特許庁 審査第一部 環境・基盤意匠 主任上席審査官 井上和之 氏による「建築物・内装の意匠に関する最新動向及びご意見について」と題した報告を拝聴した。

また、川俣上席審査長から、「特許権の共創」というテーマで、特許庁とユーザーのお互いの効率を上げるための施策や審査請求を判断するためのアイデア等について話題提供があり、活発な意見交換を行った。

(5) 第5回部会 (2/17)

会場参集とWeb会議の両方による「ハイブ

リッド開催」により実施。

a) 部会報告

2022年度の部会活動総括報告、および次期業種担当役員候補による2023年度の活動計画（案）を説明した。

b) 研究会成果報告

「知財ガバナンス」をテーマとした2022年度の研究会活動の活動内容と成果について研究会リーダーから報告した。

c) 講演

旭化成株式会社 知財インテリジェンス室 シニアフェロー 中村 栄 氏による「旭化成グループの知財インテリジェンス活動～持続的な企業

価値向上に向けて～」と題した講演を拝聴した。

3. 研究会活動

2022年4月に研究会テーマを募集し「知財ガバナンス」を2022年度のテーマとした。第1回建設部会で参加者を募り4名のメンバーで8月より研究会活動を開始した。

2021年に改訂されたコーポレート・ガバナンス・コードに知的財産への投資等の開示が義務付けられたことへの対応を中心として考察を進め、識者へのヒアリング、建設部会会員へのアンケート調査を行うことで知見を深めた。

建設部会行事一覧

	開催日	場所	活動内容
第1回	5月13日(金)	Web会議 (Teams) 幹事集合配信 前田建設 講師リモート	[1. 前年度会計報告, 2022年度部会活動計画説明] [2. 講演] 「研究開発の俯瞰から見えてきた環境・エネルギー分野動向」 国立研究開発法人科学技術振興機構 ユニットリーダー 中村 亮二 氏 ※実績：45社77名（前年度5/14 実績：44社78名）
第2回	7月8日(金)	Web会議 (Teams) 幹事及び講師 集合配信 横浜ビール	[1. 業務報告] [2. 講演及びバーチャル工場見学会] 「クラフトビールを通じた地域・人との繋がり」 株式会社横浜ビール ゼネラルマネージャー 横内 勇人 氏 ※実績：43社72名（前年度7/9 実績：43社75名）
第3回	10月7日(金)	Web会議 (Teams) 幹事及び講師 集合配信 JIPA東京事務所	[1. 業務報告] [2. 講演] 「建設業界とIPランドスケープ-CGC改訂およびSDGsを中心に-」 株式会社イーパテント 代表取締役社長 野崎 篤志 氏 ※実績：44社86名（前年度10/8順延 実績：43社76名）
第4回	11月25日(金)	Web会議 (Teams) 幹事及び講師 集合配信 前田建設	[1. 来期推薦する幹事団承認] [2. 講演] 「ARAV株式会社の事業紹介およびOSS戦略の紹介」 ARAV株式会社代表取締役社長 白久 レイエス樹 氏 [3. 特許庁行政報告] 「建設分野を取り巻く知財行政の最近の動向」 特許庁審査第一部 自然資源 上席審査長 川俣 洋史 氏 「事前アンケートへの回答」 特許庁 審査第一部 自然資源 主任上席審査官 大塚 裕一 氏 「建築物・内装の意匠に関する最新動向及びご意見について」 特許庁 審査第一部 環境・基盤意匠 主任上席審査官 井上 和之 氏 ※実績：43社73名（前年度11/26特別講演 実績：40社62名）

	開催日	場所	活動内容
第5回	2023年 2月17日(金)	Web会議 (Teams) 及び アルカディア市ヶ谷	[1. 年度活動総括, 次年度活動計画案説明] [2. 講演] 「旭化成グループの知財インテリジェンス活動」 旭化成株式会社 シニアフェロー 中村 栄 氏 [3. 建設部会研究会報告] オリエンタル白石株式会社 研究会リーダー 藤井 直 氏 ※実績：45社81名（前年度2/18 実績：45社78名）